

農業技術 フォーラム

西南暖地において、イタリアンライグラスは晩夏（8月下旬～9月下旬）に播種（はしゅ）すると、いもち病による立ち枯れや飼料としての品質低下が起るため、一般的に10月以降に播種されています。しかし、晩夏播種することで自給飼料の少ない冬季に高品質な自給粗飼料を確保できるため、いもち病に抵抗性を持つ品種が望まれています。

そこで、いもち病に抵抗性を持つイタリアンライグラス新品種「Kyushu 1」と「ヤヨイワセ」を9月に播種し、いもち病抵抗性の強さや収量性について調査しました。「Kyushu 1」と「ヤヨイワセ」は、いもち病発生程度が低く、9月に播種しても、いもち病に

かかりにくいことが分かりました。いもち病の発生が少ないことにより、乾物収量は既存品種（「さちあおば」と「あかつき」）と比較して、年内草（12

イタリアンライグラス

いもち病抵抗性品種で 冬季に自給粗飼料確保

イタリアンライグラスのいもち病発生程度と収量性

品種	いもち病抵抗性の有無	いもち病発生程度 (無・極微:1-9:甚)	草丈 (cm)		乾物収量 (kg/10a)		合計
			年内草	春1番草	年内草	春1番草	
Kyushu 1	有	1.0	94.7	107.5	500.5	940.9	1441.4
ヤヨイワセ	有	1.0	96.9	108.5	549.3	877.6	1426.9
さちあおば	有	1.3	93.4	103.4	487.5	847.4	1334.9
あかつき	無	2.9	67.6	97.1	292.4	842.0	1134.4

※年内草：12月収穫、春1番草：3月収穫

月収穫)で多収となる傾向にありました。この結果から「Kyushu 1」と「ヤヨイワセ」を9月に播種することで、自給飼料の少ない冬季においても、高品質

な自給粗飼料を確保できることが明らかとなりました(この研究は「イノベーション創出強化研究推進事業」により実施)。(長崎県農林技術開発センター 畜産研究部門 大家畜研究室 二宮京平)